

きたそらち

2023
8月号
No.269

～農業振興を通じて地域社会へ貢献～



今年で20周年を迎える「道の駅ライスランドふかがわ」の大誕生祭が開催されました♪
深川産米「ふっくりんこ」のすくい取り・野菜詰め放題は大好評でした!!

→記事の詳細は6ページ

JAきたそらちでは、ホームページ/Facebook/
Instagram/YouTubeで、魅力満載の情報を
発信中です!ぜひ、ご覧ください!



ホームページ



YouTube



Facebook



Instagram

JA.HITASORACHI

目次

- 役員就任挨拶 2～4
- 各地区で特産メロン出荷開始 5
- 元気村・夢の農村塾
大阪府の高校生が農業体験 8
- 一已中学校2年生
JAきたそらち広報隊! 12～13

就任のご挨拶



きたそらち農業協同組合

会長理事 柏木孝文

組合員の皆様をはじめ、地域の皆様には、ますますご清祥のことと推察し、お喜びを申し上げます。平素より、当組合の各事業につきまして格別のご理解・ご高配を頂き厚くお礼を申し上げます。

さて、私ことホクレン農業協同組合連合会副会長への就任に伴い、6月29日開催の第7回理事会において代表理事組合長を退任し、会長理事に就任致しました。組合長を拜命して6年、当JAの理念である「農業振興を通じて地域社会に貢献する」を常に役職員と共有しながら、課題に立ち向かって来たことにより色々な難局を乗り越えられたものと感じています。

農業を取り巻く環境は、コロナ禍の期間が長く、販売においては、在庫の増大による価格下落、インバウンド需要の激減、中・外食の需要減等で、様変わりし、基幹の米を筆頭に農作物全体が影響を受け、農業界にとって暗黒の時期となりました。

昨年春先からは、ロシアによるウクライナ侵攻を起因とする、燃油価格の

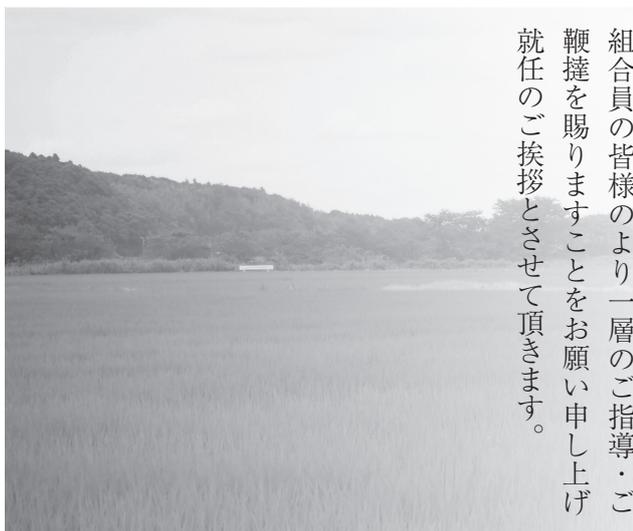
上昇・農作物の輸入停滞による価格の高騰、物価の上昇など、経済の停滞を実感しました。その中にあっても農協は、系統集結を中心に農業を守るため、北農5連とも協力しながら、あらゆる手立てをとってきました。立場が変わりましても、地域を守るため、これからも尽力させて頂きたいと思えます。

また、国内農政に目を向けますと、水田活用の直接支払交付金の運用の厳格化に伴い、農協の基幹である水田での5年ルールの適用も2年目を迎え、中山間を多く抱えている地域の組合員にとりましては、正に死活問題となっています。農協としましても、地域の声に耳を傾け、現場の意見を中央に届ける事が大事であるとの思いから、農水省との懇談等を通じ、訴えてきました。しかしながら、良い成果が上げられていないのも事実です。今後においても我が地域の課題、北海道の実情を中央に向かつて訴えていく所存です。

また、本年は食料・農業・農村基本法の検証、見直しの年です。制定から20年が経ち、世界的な食糧情勢の変化

や地球環境問題、海外との自由貿易と我が国を取り巻く環境の著しい変化に対応するため議論が行われています。今こそ、食に対して、国民皆様の意識を、安全・安心な国産農畜産物へ回帰してもらえるチャンスであり、「適正価格の形成」の確立に向け、強い気持ちを持ってホクレン副会長としての任にあたらせていただきます。

今後も、新しい体制のもと役職員一丸となって事業運営を進めて参ります。組合員の皆様の一層のご指導・ご鞭撻を賜りますことをお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。



就任のご挨拶



きたそらち農業協同組合

代表理事組合長 岩田 清正

盛夏の候、組合員の皆様にかかれましては、益々ご清祥の事とお喜び申し上げます。また、日頃より農協事業運営に関しまして、特段のご理解とご協力を頂いております事に厚くお礼申し上げます。

さてこの度、柏木孝文前組合長のホクレン副会長就任に伴う常勤体制の変更により、代表理事組合長を仰せつかる事になりました。

浅学ゆえ、この重責を全うできるか不安ではございますが、組合員の皆様のご理解とご協力を頂きまして業務を推進していきたいと考えております。組合員の皆様には、なお一層のお力添えをお願い申し上げます。

さて、昨今の農業を取り巻く情勢につきましては、コロナ禍の活動自粛も緩和され、徐々に経済も回りつつある中ではあります。過去3年に渡る影響はとて大きなものがあり、本格的な回復にはまだまだ時間がかかるものと思っております。

また、ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻も依然として先の見えない

状況が続く、我々の生活に大きな影響を及ぼしております。

特に、食料安全保障の観点では、国産の食料では賄えないことは十分に理解しながらも、具体的な内容が乏しいまま進んでいることが現状であり、また、資材などの価格高騰も依然として続き、円安の要素も加わる等で我々農業者の所得を圧迫しております。

食料・農業・農村基本法における「適正価格の形成」を強く願うところでもあります。

これらの諸問題に特效薬はありませんが、方向を見失う事なく前進することには必要であり、前進することで見えてきた問題を解決し、さらなる飛躍の糧にすることが大切と考えます。

また、SDGsによる持続可能な社会への協力も、組織としての活動に盛り込んでいかなければなりません。

私たち、きたそらち農協は「農業振興を通じて地域社会に貢献する」を経営理念に、さらなる一步を踏み出せる農協としてこれからも歩んで参ります。第7次の農業振興計画・農協経営計

画もあと2年を残すのみとなりました。水張面積の維持拡大と、米価格の浮揚は勿論ですが、各農畜産物の販売価格の上昇と生産性の向上、新規就農者をしつかりと定着させるための方策、労働力の問題などにも引き続き取り組んで参ります。

これからも役職員一丸となって地域・社会に貢献出来るよう事業の運営にあたって参りますので、組合員の皆様の一層のご指導・ご鞭撻をお願い致します。

末尾ながら皆様の御健康とご繁栄をご祈念して就任のご挨拶とさせていただきます。



就任のご挨拶



きたそらち農業協同組合

代表理事専務 松田直人

盛夏の候、組合員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より農協事業運営に際し深いご理解とご協力を頂いております事に厚く御礼申し上げます。

この度、柏木孝文前組合長のホクレン副会長就任に伴い、JA常勤役員執行体制の変更が行われる運びとなり、6月29日開催の第7回理事会において代表理事専務の任を担う事となりました。もとよりその器ではありませんが、その職責の重大さを改めて実感し、非常に身の引き締まる思いであります。きたそらち農協の更なる発展を目指して全身全霊を賭して職務にあたる所存でございますので、組合員の皆様からのより一層のご指導とご鞭撻の程お願い申し上げます。

我々を取り巻く農業情勢は、新型コロナウイルスが5類感染症に移行となったものの、外食需要が回復に至っておらず、過剰在庫が解消されないまま、依然として低水準の米価となっている上に、ロシアのウクライナ侵攻、中国の輸出規制、円安等の影響により

肥料原料や燃油が調達難となり、生産資材価格が大幅に高騰している事から農業所得が逼迫され、非常に厳しい状況が続いております。

また、国内農政では水田活用直接支払交付金の要件厳格化が示され、担い手が将来に希望を持ち、安心して営農できる環境づくりを支援する政策を強く訴えかける必要があります。

本年度は第7次農業振興計画・農協経営計画の4年目であり、重点目標「農業所得の向上と持続可能な農業経営の確立」・「担い手の育成確保と地域農業の活性化」・「農業応援団・パートナーづくりと組織基盤強化」に向けた実践状況の検証と併せて、地域の農業と暮らしになくてはならない存在としてのJAの役割をより強化して参ります。また、協同組合の原点に立ち返り、「作り手」「売り手」「買い手」のそれぞれが満足感や幸福感を得られるよう「人的結合」を強めながら新たな価値を創造することを通じて、より高いレベルの三つの安定（「農業生産の安定」・「農業経営の安定」・「農協経営の安定」）

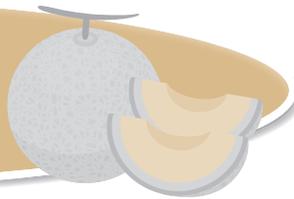
を行ってまいります。

JAきたそらちの経営理念は「農業振興を通じて地域社会へ貢献」であります。「安心・安全な農畜産物を生産し供給する」だけでなく、地域のインフラとしての役割を発揮し、全ての事業において組合員、地域住民の皆様が生涯を通じて「安心・安全なサービス」をお届けできるよう、役職員一丸となつて邁進する所存であります。

組合員の皆様と地域にとつてご健勝で稔り多き年であります事をご祈念申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。



各地区で 特産メロン出荷開始



青果部

北斗メロン

6月25日、豊潤な甘みが特徴の赤肉メロン「北斗メロン」の出荷が始まった。この日は、北斗メロン生産協議会（藁口清志会長）の荒井和也さん（一巳地区）が、青果部野菜集出荷施設に計15ケース（1ケース4玉入・5玉入り）を出荷した。

今年は5月の気温・日照時間は平年に比べ高く経過したものの、着果時期の低温の影響により着果にバラつきが出る等、管理作業には苦労する年となったが、昼夜の寒暖差が大きかった事により糖度の上がりには良く、この日の検査では糖度16度と甘さ十分のメロンが出荷された。

翌26日には、旭川市の株式会社キョクイチで初競りがあり、1㍻（秀5玉入り）が10万円で取引された。

「北斗メロン」は、同協議会が約4haに作付けしており、7月中旬から下旬をピークに秋まで出荷が続く。今年は1万2千ケースの出荷、4千5百万円の売り上げを見込む。



初出荷した荒井さん(右から2人目)

雨竜暑寒メロン

6月30日、雨竜町の特産、青肉メロン「暑寒メロン」が初出荷された。この日は雨竜町メロン部会（須見和之部会長）の谷本貴志さんが、計6ケース（5玉入り1ケース・4玉入り5ケース）を運び入れた。

この日、同部会員により行われた糖度検査では、糖度17度と甘み十分で出荷基準の14度より高い数値を出した。また検査後は、同部会員がメロンを1つずつ手に取り格付けし、出荷された全てのケースに最も高い等級の「秀」を付けた。

谷本さんは、「5月の低温等で生育は全体的に遅れ気味となったが、無事出荷することができ安堵している。今年は例年より甘くておいしいメロンとなった。沢山の人に食べて頂ければ」と笑顔で話す。

香りが良く糖度の高さが特徴の「暑寒メロン」は、同部会の15戸が約2.6haで栽培しており、今年は1万1千ケースの出荷、4千6百万円の売り上げを見込む。出荷は7月中・下旬頃にピークを迎え、8月中旬まで続く。



初出荷した谷本さん(右から2人目)

北竜ひまわりメロン

6月18日、北竜町の特産「北竜ひまわりメロン」が初出荷された。この日は、北竜メロン生産組合（石井隆組合長）の渡邊靖範さんが、50ケース（1ケース4から5玉入り）を出荷した。

今年は春先の低温が影響し、昨年より1日遅い初出荷となった。爽やかな香りと甘さが特徴の青肉メロンで、この日出荷したものの糖度は17.3度と、昨年（16.2度）より高いものとなった。

渡邊さんは、「4月20日の着果後は朝の気温がマイナスになる日もあり、メロンの生育には厳しかった。特に肥大期の低温が影響し、玉自体が固く、サイズも例年よりも小さくなったが、形や網目、そして特に甘さに関して申し分なく、美味しいメロンができたので、多くの人に食べてほしい」と笑顔で話す。

「北竜ひまわりメロン」は同生産組合の25戸が約5haで栽培し、今年は2万ケースの出荷、1億円の売り上げを目指す。出荷のピークは7月中下旬ごろから始まる。



初出荷した渡邊さん(前列中央)

道の駅ライスランドふかがわ大誕生祭 ～20周年イベント～

青果部

7月9日、深川市道の駅「ライスランドふかがわ」誕生20周年記念イベントが開催され、当日会場には大勢の来場客が訪れた。

イベントでは、道の駅の各テナントで特別メニューの販売や特別価格での販売などが行われ、当JAでも「深川産米『ふっくりんこ』のすくい取り」「野菜詰め放題」を実施、多くの買い物客が挑戦し楽しんだ。この日用意した「ふっくりんこ」300kg、野菜詰め放題の野菜約150kg（ピーマン・きゅうり）は終了時間前に完売するほど大好評となった。

さらに、深川米PRキャラクター「こめっち」「まいまい」に加えて、ライスランドふかがわの生誕20周年ということで、近郊市町より留萌市の「KAZUMOちゃん」天塩町の「てしお飯面」、苫前町の「くまだとまお」も登場し、ゆるキャラ撮影会を開催するなど会場を沸かせた。

来場客は「野菜も米も安く手に入って嬉しい」「かわいいキャラクターに癒されました！一緒に撮影もできて嬉しい」と笑顔で話す。



北空知
広域連

北育ち元気村
花き生産組合

＊花き品種展示会を開催＊

7月19日、北空知広域連花きセンターで、北育ち元気村花き生産組合主催による花き品種展示会が開催され、JAきたそらち・JA北いぶきの花き生産者約70名が参加した。

展示会では、種苗会社8社による品種展示会が開かれ、元気村の主力品目であるスターチスをはじめ、ヒマワリやダリアなどのおすすめの品種が展示された。訪れた生産者は種苗会社の担当者より品種特性等の説明を受けた。

北空知広域連の職員は「来年度の生産に役立てていただきたい」と話す。展示会の後には懇親会が行われ、焼き肉を楽しみながら生育状況などについて情報交換をした。



組合員の集い

4年ぶりに開催



毎年恒例だった「組合員の集い」が4年ぶりに音江地区と雨竜地区の2地区で開催された。参加した組合員は、日々の忙しい農作業の合間に焼き肉を食べながら家族や仲間と楽しいひと時を過ごした。



音江地区（7月4日）



雨竜地区（7月11日）

多度志町民の集い



7月12日、多度志地区農業振興協議会主催の「2023年 多度志町民の集い」が開催された。このイベントは、町民が一堂に集まる機会を作ろうと同協議会が企画し毎年行われていたもので今年が4年ぶりの開催となる。

会場ではご飯の炊き出しや、深川牛の販売などが行われ参加した町民たちは食事を楽しみながら家族や仲間たちとの会話に花を咲かせた。



JAきたそらち太陽光発電所 発電実績

○令和5年6月実績

○累計（R4.12～R5.6）

発電電力 **59,530kWh**

発電電力 **281,467kWh**

計画対比 +9,005kWh

計画対比 +47,507kWh

前年対比 Δ 2,352kWh

前年対比 Δ 31,797kWh

売電金額 2,381,200円（40円/kWh）



元気村・夢の農村塾 大阪府の高校生が農業体験



6月30日、元気村・夢の農村塾（村上はるみ塾長）が、ファームステイに訪れた大阪府開明高等学校の2年生44名を受け入れた。

元気村・夢の農村塾は平成14年に設立され、北空知管内の市町村の農業者などが協力し、道内外で農泊や農業体験を希望する学校を受け入れている。

この日、一已地区の神尾誠氏宅では生徒4名を受け入れ、スターチスの採花・選花体験を行った。スターチスの採花ではハウスの中に入り、1本1本見極めながら採花を行った。作業中は黙々と集中していた様子だったが時折、花に止まる蜂を見て驚いたり、花を雨に曝さないよう生徒たちで協力して納屋まで抱えて走るなど楽しげに体験を行っていた。

参加した生徒は、「採花が想像していたより大変で、さらに雨が降っていたためハウスから納屋に運ぶのも大変でした。ただ、皆と一緒に作業することがとても楽しかった」と話す。

今回受け入れを行った神尾氏は、「今回は生徒が宿泊もする。アレルギーを持つ生徒もいるため食事面等で気を遣うことは多いが、生徒たちは教えるとすぐに吸収し真剣に作業に取り組んでくれる。これからもできる限り受け入れを続けていきたい」と話す。



令和5年度 北育ち元気塾 第3回研修会 開催

6月27日、当JAにて令和5年度「北育ち元気塾」第3回研修会が開催され、元気塾生14名が出席した。

空知農業改良普及センター北空知支所普及職員の田中聡馬氏が土壌肥料について講義をし、土壌分析の方法や分析結果の詳しい見方を説明した。田中氏は塾生に対し「土壌診断を通して、普及センターや農協に指導された通りに肥料や農薬の使用量を変えるだけでなく、“なぜ必要なのか？本当に必要なのか？”を自分で考えられることが重要です」と述べた。

続いて、農業士の溝口めぐみ氏による講義「我が家の営農計画」が行われ、溝口氏自身の経歴や今までに取り組んできた地域の活動などを紹介し、塾生に農業の様々な可能性を提示した。溝口氏は「地域活動を通して自分にできることを貫き、困ったことがあれば相談できる仲間を増やし人脈を広げて、農業をさらに発展させていって欲しい」と塾生に応援の言葉を送った。

今回の講義を受けた塾生は「土壌肥料についての説明が大変わかりやすくて良かった」「私も農業の発展に向けた行動力を見習いたい」などと感想を述べた。



令和5年度

「JAきたそらち地域農業応援団」を開催



当JAでは今年も、JAと准組合員との交流の場「JAきたそらち地域農業応援団」を開催し、本年度はJA管内に住む准組合員18名が入団した。

7月7日に、当JA本所第1・第2中会議室で第1回応援団会議が開催され、応援団員16名やJA役職員などが出席した。

開会にあたり岩田清正組合長は、「地域農業にJAがどう関わっているのかを皆様にご理解いただいた中で、皆様の感じたことを教えていただき我々が吸収出来れば」と挨拶した。

応援団では、「食育ソムリエ」の資格を持つ青果部の河原秀昌青果課長から、家庭菜園や食育活動についての講習会が行われた。団員からは、「家庭菜園をする際の追肥の仕方」など多くの質問が出され、同職員は土づくりやプランター栽培のコツ、肥料の種類や特徴などについて説明を行った。

さらに、精米施設の見学を行い、普段はなかなか見ることのできない施設内部を見学し、集荷から調製・

出荷までのそれぞれの工程で最新鋭の設備と徹底した品質管理が行われていること等に関心が寄せられた。

参加した団員は「1年間色んなことを学ばせて頂きたい。楽しみです」「前に参加した方に『すごく楽しかったよ』と紹介されて参加した。私も『楽しかった』と言えるように活動したい」と話す。

今年度も時季に合わせた活動を5回に分けて行う。



JA空知青年部連合会

北ブロック球技大会

6月23日、深川市石狩緑地野球場でJA空知青年部連合会北ブロック第47回球技大会が3年ぶりに開催された。JAきたそらち青年部・JA北いぶき青年部・NOSAI道央・JA職員ら196名が参加し、12チーム対抗のキックベースボール大会が行われた。

開催にあたり同連合会北ブロック代表理事の川村祐太郎部長は「天候にも恵まれ、3年ぶりの球技大会を無事開催できてほっとしている。怪我に十分気を付け、楽しく運動して、楽しく飲んで最高の1日をみんなで作りたい」と挨拶した。

参加者は日頃の疲れを忘れプレーを楽しみ、熱戦の結果JA北いぶき沼田支部が優勝し、JAきたそらち多度志支部が準優勝という結果になった。球技大会終了後は、当JAライスターミナルにて懇親会を行い日々の農作業などを話題に交流を深めた。



農業 振興部



7月5日、JAきたそらち女性大学「カレッジあみていえ」3期生の第7講が開催され、受講生8名が参加した。

第7講では、北竜町で活動をしている「つむぎ」より浅野香織氏、竹林玲子氏、谷本桂氏、吉田愛氏の4名を講師に迎え、北竜産の稲わらを使った手作りリースを製作した。

作業が始まると受講生たちは、講師に指導を受けながら真剣な顔つきで丁寧に縄を編んでいた。飾りつけの工程では、様々な種類の材料の中からそれぞれ好きな飾りを悩みながら選び、リースに接着し完成させた。

受講生は「縄を編むのが難しかったが、やりがいがあったて楽しかった」「とても可愛らしく仕上がったので玄関に飾りたい」と話し、満足そうな笑顔を見せた。

JAきたそらち女性大学 カレッジあみていえ3期生第7講開催 北竜産稲わらで「稲わらリースづくり」

女性部 だより



JAきたそらち女性部

『さくらカレッジ』開催

7月6日、第32回さくらカレッジ講習会を開催し部員25名が参加した。

今回は旭川市にあるハンドメイドアクセサリー教室「Porin(ラポリン) 上森美穂氏を講師に迎え「コルク人形・マニキュアフラワー」講習会を開催した。

廃材になってしまいうシャンパンコルクに針金で手足を付けてコルク人形を作り、針金で作った花びらに自分の好きな色のマニキュアを塗り花束にして持たせて、ボードに貼り付けると出来上がりとなる。

針金にマニキュアを塗る作業が難しく最初は苦戦していたが、慣れてくるとスピードが上がり、当初3本予定のマニキュアフラワーを5〜6本作る参加者もいた。

コルク人形は、帽子をかぶせたり髪の毛をつけたりと、それぞれ個性ある仕上がりとなり世界に一つだけのほっこり癒しの人形の完成となった。

参加した部員は「集中して作ると時間があったという間に経って楽しかった」「皆さん、それぞれ違うアイデアでとても勉強になる」と語っていた。



JAきたそらち女性部 支部長研修

JAきたそらち女性部 部長 高田 聡子

「もう一泊くらいしたいと思わない？」
「またこのメンバーで旅行がしたいね。」

「全員来年も支部長させてもらう？（笑）」

「支部長の同期会が今から楽しみ。」

「こんなに楽しい体験ができるなら多くの部員さんに支部長の経験をして欲しい。」

「支部長相互の親睦をできるだけ年度早期に深めたい」との事務局の意向もあり例年より早い6月23日・24日に今年度の支部長研修旅行が遂行されましたが、先述の様な言葉が飛び交う狙いどおりの充実した一泊二日間であったものと思います。

今回の研修旅行日程上、特筆すべきこととしては、河東群音更町JA木野ハピオに於けるお米の販売促進活動に参加させていただいたことでありましょう。米穀課による十勝での三日間の販促期間にタイミングを合わせて旅程を調整していただき、生産者である私たちが自ら店頭売場に立ち消費者であるお客様に直接お米を御奨めし、手から手へお渡しする、という得難い機会をいただきました。深川、北竜、雨竜の自慢の米に加えてJAきたそらちの花や幌加内の蕎麦のPRも併せて行って参りました。

スタートは金曜午後1時、お客様は既に昼食を摂られており試食をお勧めしてもあまり手が伸びない時間帯。ですがそこで引き退がるような柔な支部長はおりません「お持ち帰り下さって後で食べ比べてみてください！」「ゆめびりかに劣らぬ粘り強さです。遠巻きに眺めるお客様には接近戦に打って出ます。2、3人で取り囲んでマイルドに庄をかける裏技も発揮。

「家ではコレしか食べないのよ」（う、嬉しいお言葉、部長思わずハグ）

「先週コレ買ったばかりなのさ」（感謝）

「やっぱり女の人は華があつていいねえ」（華!!）

「一番おいしいのってどれ？」（はい、食べ比べどうぞ）

午後3時を回るとそろそろ試食にも手が伸びて参ります。

「おいしい。コッチも。両方買おうわ。」（泣ける）

「後で買います」（店舗前の出店某焼き鳥屋さん）

各支部長、お客様との交流にもお米の品種並みに個性を発揮し始め売り場からみるみる米が減りそろそろ補充、という頃合いに終了予定時刻の午後4時となりました。

「作業着と長靴の方がウケたかもね」「後で来るって言ってたお母さんホントに来てくれたよね」「お花みんな喜んでたね」各支部長初めての販促を無事終了するも興奮冷めず。

「…美味しいお米作らなきゃね」

生産者が販促に立つということの意味は、ただ単純にお米を数売るばかりではないんですね。

この健康的によく笑う元気な人たちが作っているんだな、という消費者の安心の醸成。

更には私たち自身が、お客様が喜んで食べてくれているという手ごたえを感じさせていたただく場面でもあるのだと。安心安全という概念は、この生産者と消費者との相互の信頼関係が成立していなければ空虚なものなかもしれない。

明らかに行きにも増して和気藹々とした帰りの車内の雰囲気今後の支部長としての活動へ

の意欲を感じ、女性部に於ける研修旅行には殊更に重要な意義がある、と確信いたしました。

日ごろ家事労働、各々の農作業に追われ、組織の役職などとは無縁の生活をおくる多くの女性部員は、研修旅行という非日常の場を設定された状態で漸く、何かりセットのようなものが働きますのではないかと、そうした機会を重ね、切り替えがスムーズになるに従って役職ハードルは僅かでも低くなつていくのではないかと思うのです。

JAきたそらち内にも女性役員の必要性が議論され始めておりますが、まずは私たち女性部員自らがそれぞれのハードルを越える用意ができていくことが前提であり、そのためにも研修旅行のような機会はいへん有意義なものであると存じます。

最後にこの度の旅行にご尽力いただきました事務局、他関係各位のみなさまに感謝申し上げます。



花き担当～宮崎羽琉くん～

7月12日、北育ち元気村花き生産組合副組合長の廣田和也氏（一巳地区）に取材した。廣田さんは、令和3年から花農家を始めている。花農家を始めた理由は、初めは野菜農家で、野菜は季節によって売れる値段の差が大きいからそれに比べて花は値段の差が少なく収入が安定すること。花で心が安らぐためと話す。

廣田さんは、主にスターチスという花を育てている。その他にも、ほおずき・おもちゃかぼちゃ・スモークツリーなども育てている。

60mのハウスが8棟あり、花の本数は約34万8千本にもなるそうだ。

廣田さんが花農家をしていて楽しいと思うことは「自分の出した花が東京・大阪で飾られるようになることややりがいを感じる」「昨年失敗してしまった花の育て方を次の年に改善し、成功すると嬉しいし楽しい」と話す。



花はビニールハウスで育てており、ハウス内は当然暑い。長時間滞在すると体調を崩す可能性がある。そのため「仕事は体を壊してまでやることではない。遮光ネットを使用したり、暑くなったら休憩を取ったり仕事を切り上げたり臨機応変に作業する」と話す。

最後に廣田さんは「楽しんで、人生楽しんで、社会貢献していければ」と話した。

農福連携担当～堀翔貴くん～

7月12日、せがわ農園（音江地区）へ取材した。

対応してくれ方はせがわ農園の瀬川直希さん。農園は瀬川さんの妻・父・母の4人で経営している。まくらんぼ狩りを始めるとき、瀬川さんからひもがついた紙コップをもらった。この紙コップは種を捨てるためのものだ。紙コップを作っているのは、市内の障がい者の人たち。初めは瀬川さんの家族で作っていたが、量が多く間に合わなくなつたためJAに相談し農福連携で障がい者の人たちに紙コップを作ってもらうことになったそうだ。

瀬川さんは「障がい者の人たちはきれいに作ってくれて、労力の軽減にも繋がった。大変助かっています」と話す。種を捨てる紙コップがあることで、地面が常にきれいに保たれお客さんからも喜ばれるそうだ。

実際に瀬川さんに指導していたので、まくらんぼ狩りを体験した。まくらんぼは赤くなっているものがおいしいこと、優しく上に持ち上げて取ることを教えていたのだ。

同農園では、8種類のまくらんぼを栽培しており、少しずっぱいが甘みがあり美味しい。

今年は、6月18日にテントを建てたそうだ。理由はまくらんぼは水を含むと割れてしまい甘みも落ちるため。



この日は、外国から訪れたお客さんもいて賑わっており、多くの方がまくらんぼ狩りを楽しんだ。瀬川さんは最後に「農園をきれいにするとお客様が喜んでくれる。これからも農福連携を続けていきたい」と話す。

障がい者の人たちが作ってくれる紙コップがあるおかげで、農園の地面も清潔に保つことができています。これからも農福連携を続けていってほしい。

スマート農業担当～酒井凰助くん～

7月12日、(株)EZONE(一已地区)に取材した。

EZONEはドローンやロボットトラクターを使い30haの土地で米・麦・大豆・花といった作物を生産している。

ドローンは、人がルートを設定すれば勝手に肥料や農薬を散布してくれる。さらにセンサーもあり障害物を感知し避けることも可能だ。バッテリーを使い1回で10分の飛行が可能。散布量も1haも撒けるそうだ。

ロボットトラクターは2つのタイプを見せてもらった。1つ目は、人が乗車しなければ作動しないものだ。人が運転しなくてもルートを設定すれば衛星を利用して位置情報を把握し自動で運転を行う。

2つ目は、完全無人のタイプだ。人が乗っていないだけでも衛星を利用して設定されたルートを自動で運転する。そしてトラクターの前後につける作業機も進化していて、土を起こしたり石を細かくする機械もある。

(株)EZONEの坂田輝行代表取締役は、「今、農家の人手が減っている。だから機械で人手をカバーする」と話す。

農業も機械化が進んでいる。正直こんなに進んでいるとは思わなかった。改めてすごいと感じた。



施設見学&料理体験担当～遠藤大騎くん～

7月13日、JAきたそらちの深川マイナリーを見学した。

マイナリーでは、長い階段を上り屋上へ向かった。屋上からの景色はとても良く、小中学校などの知っている建造物を普段とは異なる視点で見ることができた。

その後、JAきたそらちでは深川産の農畜産物を使用し、「黒米ちらしずし」や「アスパラの豚肉巻き」を作った。調理は友達と4人で協力して作ることもできたのでいい思い出となった。皆で食べると上手にできて、ほめてくれたのでとても楽しくできた。実食では、JAきたそらちの方々にも食べていただき「おいしい」と言ってもらえてとてもうれしかった。また、深川産の農畜産物は地元の直売所で購入でき、美味しいと教えてくれたのでこれからも食べていきたい。

最後に、JAきたそらちの方々はとても優しくいい人たちで、また来たいと思った。

良い体験をさせてくれたので、感謝しかないなと思った。



一已中学校広報隊!～職場体験で広報を体験～

7月12日と13日の2日間、一已中学校2年生4名が職場体験として当JAを訪れ、広報業務を体験した。

体験を通して、地元の「地域農業」と「農協」の関わりを学んでもらうことを目的として、生徒にはJA管内3件の生産者のもとへ取材を行って頂いた。

初めは緊張し、戸惑っている様子も見られたが生産者と話していく上で少しずつ打ち解け楽しく取材を行うことができていた。

2日目には、当JAの『深川マイナリー』の見学、深川産農畜産物を使用した「黒米ちらしずし」「アスパラの豚肉巻き」の料理体験も行った。

「実際に生産者と会って、話をし、理解をして、記事にまとめる」日常では経験できない充実した職場体験となった。





北竜ひまわりすいか 福祉施設へ贈呈



6月29日、北竜ひまわりすいか組合（渡邊俊成組合長）が特別養護老人ホーム北竜町永楽園に「北竜ひまわりすいか」4玉入り3箱の贈呈を行った。

この贈呈は地元の特産品であるひまわりすいかを利用者に楽しんでもらうことを目的として長年にわたり毎年行われていたが、近年は新型コロナウイルスの影響で直接の贈呈ができておらず今回3年ぶりの実施となった。

この日は、渡邊組合長が同施設を訪れ「久しぶりに直接贈呈することができて嬉しい。皆さんで美味しく食べていただければ」と贈呈した。

受け取った同施設の東海林孝行園長は「今年も贈呈いただきありがとうございます。大変助かります。地元の美味しい旬のデザートを利用者の皆様に美味しく召し上がってほしい」と感謝を述べた。



「ホクレン・ディスタンスチャレンジ2023」

深川大会で農畜産物を贈呈



7月5日、「ホクレン・ディスタンスチャレンジ2023」の深川大会が深川市陸上競技場で行われた。

同大会には、国内外の中・長距離のトップランナーが出演し、男女5000mや男女10000mなど全16レースが行われた。

また、当JAの松田直人専務が男子10000mのプレゼンターを務め、同レースで優勝した米井翔也選手（JR東日本）にふかがわ米や深川牛、花束など農畜産物を手渡した。

今年も大勢の観客が競技場に訪れ、選手らに声援を送った。さらに、当日インターネットでも競技の様子が生配信された。



納内年金友の会

研修旅行を開催

6月26日、納内年金友の会（川中裕会長）の令和5年度夏の研修旅行が昨年に引き続き開催され24名が参加した。

今年は北広島に新しく建設され話題の日本ハムファイターズ本拠地のエスコンフィールド北海道を見学した。当日は風が強かったが晴天で、天然芝の緑がまぶしい開放的な球場に参加者の目も輝いていた。

昼食後には、この度リニューアルされた札幌市民防災センターで地震・暴風・消火・煙避難などの体験や3Dの災害バーチャル映像を視聴しまさかの時の心構えをした。

その後白い恋人パークでお土産を購入し、夜は松尾ジンギスカン本店（滝川市）で懇親を深めながら今後の英気を養った。

【金融共済納内支所 盛本】



音江ひなぎく

会 員 募 集 中

平成15年に設立されたボランティアグループ「音江ひなぎく」は会員を募集しております。

活動内容は、主に音江地区内の独居老人宅のケアとなります。

- ・安否確認（電話・訪問）
- ・季節のお手紙送付
- ・饅頭作り、配布など

各会員、無理のないようできる範囲での活動を行っております。

さらに、会員同士のコミュニケーションのため研修旅行や学習会も開催しています。



ボランティアをしてみたい方、ぜひ一緒に活動をしてみませんか？
皆さまの入会を会員一同心よりお待ちしております。

連絡先：きたそらち農協 深川支所営農課 藤井
TEL:0164-26-0137



JAきたそらち野球部は、7月3日と7月5日の両日、新十津川町のふるさと公園とピンネスタジアムにて開催された「第64回 空知管内JA野球大会」に出場し、4回目の優勝を果たした。前回大会に続き3連覇となった。

1試合目は、JAびばいと対戦し3回コールドの14対1で勝利、準決勝ではJAながぬまと対戦し5回コールドの9対0で勝利した。迎えた決勝戦では、JAいわみざわとの対戦となり、初回に先頭打者の堀口（青果部施設課）が塁に出ると、続く佐藤（雨竜支所営農課）の送りバントで相手の守備が乱れ、その間に堀口が生還し先制点を挙げた。

4回には、長場（販売部農産課）が長打を放ち、さらに2点を追加。5回、6回にも点を重ね6回コールドの10対0で勝利し、全試合コールドで優勝を飾った。

表彰式では勝利監督賞を玉置（渉外課）、美技賞を稲田（畜産課）、最優秀選手賞を佐藤が受賞した。同部は空知管内を代表して、9月5日から6日に江別市で行われる全道大会に出場する。



JAきたそらち役職員向け研修会を開催 ～交通安全講習会・コンプライアンス研修会～

6月28日、コンプライアンス意識を高めるため全役職員を対象とした「コンプライアンス研修会」を開催した。同研修会は毎年この時期に実施している。

同研修会では、総務経理課職員が、個人情報保護、コンプライアンス遵守、ハラスメント防止などについて話した。

また、7月12日には「交通安全講習会」が行われた。

同講習会は、深川警察署交通課長の上村大地氏を講師に迎えて行われ、北空知管内の死亡事故発生の実態や事故に遭った車のドライブレコーダーの映像を視聴し、交通事故の悲惨さ事故の原因などを学んだ。また、お酒に酔った状態の視界を再現した特殊なゴーグルを装着し、実際に歩いてみるといった体験も行い、飲酒運転がどれほど危険なものかを改めて確認した。講習会の最後に上村氏は、「動機」「機会」「正当化」の3点からなる「不正のトライアングル」を提唱し、どれか一つ条件が揃えば誰もが交通事故の加害者となることを職員に呼びかけた。

役職員にとって不祥事・交通事故の未然防止に役立つ研修会となった。





3列目左から▶吉田智哉、鈴木友也、田中佑汰、大路範一、宮脇正博
2列目左から▶北清浩美、秋場美雪、立花乃理子、伊藤あゆみ主査、三浦智子主査、堀口知江美
1列目左から▶松田和弥、島倉恵一査査役、佐藤一久部長、高木真樹課長、中原淳主査

販売部 米穀課

高木真樹 課長からのコメント



当JAのメイン作物である「水稻」「米」に関わる、生産指導、集荷、保管、販売、精算の業務を担当しています。
また、精米に関わる業務も行っており、きたそらち産の美味しいお米を精米し全国の消費者にお届けをしております。
北海道一お米を取り扱うJAとして「日本一の米産地になる」を実現するべく、時代の流れに沿った新しい生産技術や販売手法を取り入れ、地域と生産者がより一層潤うように課内職員日々努力をして参ります。



後列左から▶和田蒼士、長場夏太、渡部翔也、毛利陽紀、辻聖也
前列左から▶村山愉香主査、齋藤直寛主査、秋山真輝課長、佐野雄平主査

販売部 農産課

秋山真輝 課長からのコメント



小麦・大豆・そばなど畑作物全般を担当しています。
生産支援・集荷体制整備・販売強化などに取り組み、畑作物による所得の安定確保を目指してまいります。



後列左から▶横山輝好、小野裕之、大岡由貴、稲田集哉
前列左から▶山崎菜、中野智晴課長、松原健太

販売部 畜産課

中野智晴 課長からのコメント



家畜の販売並びに導入、また生乳に関する検査や各種事業の申請など、畜産に関連する業務を総体的に行っております。
昨今畜産業界を取り巻く環境は非常に厳しい情勢が続いておりますが、生産者の経営に少しでも貢献できるようメンバー全員で取り組んでいきます!



各人に問われる「考え方」のありよう

年の8月、産業現場に大きな影響を与えたある方が亡くなりました。稲盛和夫氏です。京都セラミック株式会社（現・京セラ）を立ち上げ、第二電電（現・KDDI）を設立し、その後、経営に赤信号が出た日本航空の会長としてその建て直しに尽力するなど、わが国の経済に多大な貢献をした方です。私はそれを信奉し、氏の考え方等を学ぶ「盛和塾」の塾生ではないものの、その考え方等には共鳴するものがあり、私自身もどこかでそれを広げていきたいと思っている一人です。

ところで稲盛氏の考え方として、つとに有名なものに「人生の方程式」があります。次の算式がそれに当たります。

人生・仕事の結果＝

考え方×熱意×能力

稲盛氏いわく。人生を成功させる為にはとりわけ「考え方」が重要だ。他の二つ、即ち、「熱意」や「能力」は最も低くても「ゼロ」なのですが「考え方」はそうはなりません。同じ物事を捉えるにしてもネガティブな考え方ならどうでしょうか？算式がかけ算であるがゆえにこれがネガティブだと、どのように些細なことであつたにしても結果はマイナス

になつてしまいます。とりわけ怖いのは熱意や能力が高ければ高いほど、そのマイナスが大きくなるということ。となると、人が育つ組織にする為にはまず問われるのは「考え方」がどうか？です。皆さんの周りでもありませんか？「優秀であるが考え方がネガティブで批判的」：それで企業のアキレス腱になっている存在の人が。働く現場においては「技術（スキル）」も非常に重要ですが、私はその土台にこうした「考え方」が問われると思います。私は貴JAにお世話になり「サムライ塾」等で講義をしておりますが、「心の有り様（マインド）」：言葉を変えるのと「人間性」にベースをおくゆえんはそこにあります。確か、人柄がしっかりし、考え方が前向きな人であれば、一つの気づきを得たら、必要と思えばスキルを向上させる機会を自ら求めていくに違いありません。微力ではありますが、これまで培ってきた知識や経験などを踏まえ、少しでも各人の成長に向け背中を押すことが出来ればと、30年あまりの講師業の集大成のような気構えで。それが農業の発展の後押しをし、地域への貢献として自分自身が生かせる道だからです。

何故に今回、これを話題にしたかといいますが、こうして様々なJAとお付き合いをしていると、この考え方に？がつく人が多いように感じ

るからに他なりません。そうした意味で組織において極めて重要な役割を担うのが管理者の方々です。この人達にまず問われるのは組織や仕事の向き合い方などに対する考え方です。部下はそうした上司をモデルにして育ちます。更にその考え方は、組織として大切な横の協働関係にも大きく影響を与え、チームとしての成果に直結します。貴JAの理念カードを見てみると「めざす職員像」として「私たちは組合員、利用者、地域社会、そして家族に『寄り添う』ことができる自律創造型の職員をめざします」と書かれています。その「自律型人材」を育てるためには「自律型上司」の存在が不可欠です。こう考えると、人が育つ組織にする為には、スキル以前に「考え方の教育」をベースにおくことです。その為には管理者教育が重要で「管理者が変わらずして組織は変わらない」と断言してもよいでしょう。その「考え方」の上に、大事になるのが組織として「共通用語」を持つことです。手前味噌ではありますが、一昨年に上梓した拙著のタイトルである「豊かに働き、すてきに生きる」もその一つとしては有効ではと思っ

ています。何故なら、立場や職種の違い等があつたにしても、これに反旗を翻す人はまずはいないでしょうから。

【著者】石田邦雄（いしだくにお）氏



1946年北海道新得町生まれ。(有)石田コンサルタントオフィス代表取締役、めでの研究室主宰。国鉄、会計事務所を経て中小企業診断士として独立開業。

現在は社会保険労務士、キャリアコンサルタントとして、組織改革や人材育成に携わる。人と企業のマッチングを目指し、中小企業大学校を初めJAカレッジなど、多くの団体、企業と携わる。「教えるよりも考える」、「学ぶより気づく」を柱に、体験学習を交えたわかりやすい研修が特徴。著書に「産業力コンサルティング」や「縁を紡ぎ、人を育む」など多数。



もつとも人間らしい行動のひとつとして言語（げんご…ことば）の使用があげられます。人間は言葉を使って周囲と意志の疎通ができます。言葉をつかえるからこそ、人間は今のような社会を築くことができたのです。話しことばのもととなる、声（こえ）、を生みだす器官を喉頭（こうとう）、言葉の発音に関与する器官（構音器官…こうおんきかん）は咽頭（いんとう）、口腔（こうくう）、鼻腔（びくう）であり、耳鼻咽喉科はそれらを診療の対象としています。

発声障害とは、声を生みだす喉頭（こうとう）の異常によって、声が出にくくなったり、あるいは声の質が悪くなったりする（声がかすれる）状態を言います。鼻水と咳が出るといった、いわゆる風邪をひいた時は、声帯にも急性炎症が起り腫れることがあります。あるいは声帯に慢性的なポリープや結節などができた場合にも発声障害が起ります。ポリープや結節は声の濫用や酷使が原因のことが多く、声の安静や声の出し方の指導を行っても良くならない場合には手術が必要になります。喉頭に腫瘍ができた場合も当然ながら慢性的に声はかすれてきます。悪性のものを喉頭がんと呼びます。反回神経と呼ばれる声帯を動かす神経が何らかの原因で麻痺した場合も、かすれ声となります。反回神経の麻痺の原因はウイルス感染、喉頭がん、下咽頭がん、甲状腺がん、肺がん、食道がんなどによっても起こりますので注意が必要です。発声障害を正しく診断し治療するには、耳鼻咽喉科で直接喉頭を観察する必要があります。

声帯で発生した声を、咽頭、口腔、鼻腔などの形を変えて語音（ごおん）として構成し、言葉をつくることを構音（こうおん）と言います。構音は小児期に確立されると言われています。構音が障害されると、言葉として聞き取りにくい発声となります。成人以降に、脳血管障害や神経変性疾患などで起こる構音障害を運動性構音障害と呼び、リハビリテーションの対象になります。また耳鼻咽喉科では、舌やどのがんの治療を行います。手術治療ではさまざまな程度の構音障害が生じることがあり、再建手術が必要な場合もあります。

ことばは、出生後の学習によって身につけていくものです。生まれつき聴こえが悪かったり、あるいは構音器官に障害があると、ことばの発達が順調に進まない可能性がありますので、早期での正しい診断が重要となります。

会話でほかの人の意志の疎通を図ることは、人間らしく生きる上で大変重要であり、また歌を歌うことは人に喜びを与えたり、感情を揺さぶったりします。自分が思うように話せない状況になると、他の人との会話に積極的に参加できなくなることもあり、社会性がどんどん低下していきます。耳鼻咽喉科では、聴覚障害はもちろん、声や話しことばの異常に関しても診療しております。そのような異常を感じた時は、速やかな受診をお勧めいたします。

トラクター向け自動車共済

トラクターの
保障は
大丈夫ですか

運転が上手なベテランの方は安心かもしれませんが、
運転が心配な同居のご家族（免許取りたての方・高齢の方など）や
従業員の方が運転されるときは、大丈夫ですか？
実際、ご家族や従業員の方が運転中の
トラクター事故が発生しています。

脱輪・横転事故

「夜間の路肩が見にくかった。」などの理由以外としては、
わき見、運転操作誤りなどの運転未熟が原因の
事故が多く発生しています。



飛び石事故

作業機が巻き上げた石が、運転席のガラスを
破損させる事故が発生しています。
ベテランの方も回避は困難です。



被けん引作業機と他物との事故

トラクターでけん引している作業機と電柱や立ち木などが接触する事故が後をたちません。
うっかりが原因です。

車両保障を
つけると
(500万円)

20等級
の場合

共済掛金
(一時払)

32,550円より

詳しくは裏面をご覧ください

金融共済部からのお知らせ

トラクター車両保障プラン

車両保障

車両保障は、トラクター本体に加えてフロントローダーや被けん引作業機もご加入いただけますので、お申し出いただければ、ご契約されているトラクターに牽引されている際の作業機の損害も保障対象となります。

*事故原因などによっては車両共済金をお支払できない場合がございます。

事例1) 車両に存在する欠陥、摩滅、腐しょく、さび、その他自然の消耗

事例2) 故障損害（偶然的な外来の事故に直接起因しない車両の電氣的または機械的損害）

契約内容

(自動車共済：トラクター(農耕作業用小型特殊自動車)共済期間 12 か月の契約
農業用安全自動車割引：無 自動継続割引：有 事故有係数適用期間：0年)

車両保障 (全損害担保)	500 万円(免責 1 万円)
対人賠償	無制限
対物賠償	無制限(免責 0 万円) ※対物超過修理費用保障あり
人身傷害保障条項 (被共済者限定特則無)	5,000 万円
傷害定額給付条項 (被共済者限定特則無)	死亡 1,000 万円
治療共済金	倍額型
弁護士費用保障特約	有

トラクター車両保障プランの共済掛金 (一時払)

等級別の例

新規 6 等級の場合

79,160 円

7 等級の場合

64,850 円

10 等級の場合

49,670 円

15 等級の場合

45,190 円

20 等級の場合

32,550 円※

※長期優良契約割引適用期間5年・長期優良契約割引(割引率：6%)

- 上記共済掛金は令和 5 年 4 月現在の共済掛金です。
- この資料は概要を説明したものです。ご検討にあたっては、「重要事項説明書(契約概要)」を必ずご覧ください。また、ご契約の際には、「重要事項説明書(注意喚起情報)および「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。
- このチラシの有効期限は令和 5 年 12 月 31 日までです。

お問い合わせは

JA共済

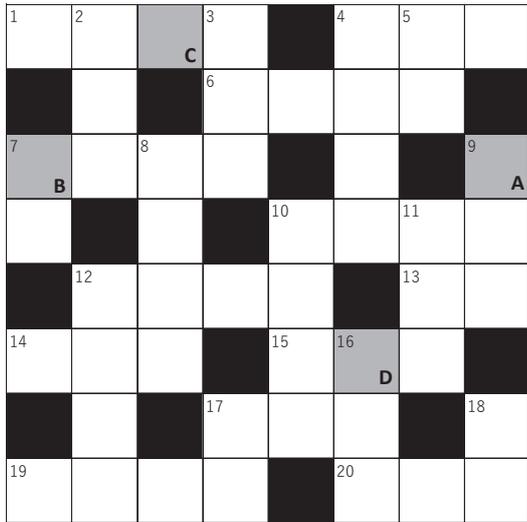
JAきたそらち

本 所 TEL 0164-22-6619 多度志支所 TEL 0164-27-2111
菅江支所 TEL 0164-25-1111 雨 竜 支 所 TEL 0125-77-2331
深川支所 TEL 0164-22-2171 北 竜 支 所 TEL 0164-34-2280
納内支所 TEL 0164-24-2211 幌加内支所 TEL 0165-35-2024

23019990075

クロスワードクイズ

提供元:クロスワード.jp



A	B	C	D
---	---	---	---

【タテのカギ】

- 土・石・れんがなどで囲い上に釜や鍋をかけた下で火を焚き煮炊きする設備
- 地球上で、海や湖などの水でおおわれていない部分
- 楕円形のボールを使うフットボールの一種
- 無意識の習慣になっている動作や言葉
- 自分の産んだ子どもの子ども
- 集団。仲間。「アイドル○○○」「仲良し○○○○」
- 昼間寝ること
- 店などを新しく始めること。開かれていることや開いていること
- 小さい子どものために、絵を主にしてかかれた本
- 手紙を書くための用紙
- 考えられる最高の状態
- 牛・豚などの舌の肉
- バラやサボテンなどの植物の茎や葉に生えているとがった部分

【ヨコのカギ】

- 関係。つながり。「○○○○あいのある人」
- 終わりに落ちのある滑稽な話芸
- いつもくせのようにいう言葉。決まり文句。
- 窓を通して、品物やお金などを出したり入れたりするところ
- 女性の会社員・事務員
- 理科の実験に使う、透明なコップのような入れ物。
- 動物の体内にある硬くて白いもの
- 妊娠している女性
- プディング。特にカスタードプディング
- 石灰やダイヤモンドを作っている元素
- 銀を産出する鉱山
- 顔や首筋に生えているやわらかい毛

6月号の正解は

「アマガエル」でした。

正解者の中から抽選で3名が選ばれました。

伊達市 黒川 崇 様
妹背牛町 清水奈美子 様
深川市 松本 恭子 様

応募方法

正解者の中から抽選で3名様に農協全国商品券をプレゼント。ホームページ応募フォーム・ハガキ・FAXで①クイズの答え②住所、氏名、年齢③身近な出来事④農協だよりに対するご意見ご要望を記入の上ご応募下さい。

締切8月31日消印有効で当選者とクイズの答えは令和5年10月号に掲載します。

【送り先】〒074-0015 深川市深川町字メム10号線山3線5850番地

JAきたそらち農業振興部営農企画課 FAXの場合は 0164-22-1228

【ホームページ応募フォーム】URL: http://www.ja-kitasorachi.com/application_form/

※ご本人以外による応募は抽選の対象外とさせていただきます。



七月俳句

● 雨竜俳句会

姑の忌や蕨ひと皿ふやしおり
怒憎をいや増し夏草今年また
五月晴姑の命日清らかに
雨休み聞こえる全て子守唄
早乙女で伝統伝え献上米

北川 満江
小山 邦男
松木 五月
宮武めぐみ
吉見サヨ子

● 「道」俳句会 北竜支部

逃水や弟の危篤へ急ぐ車
小刻みに揺れる草花喜雨となる
がむしやらの五十五年や新茶汲む
愛用の枕となるやラベンダー
空知野は大波小波青田波
真夏日を乗り切る術を夫に問う
わが愚痴を聞かぬふりして鉄砲百合
病む友の心しらずや蝉時雨

山本 玲子
山岸 正俊
阿部れい子
吉尾 広子
山下 好晴
中島 雅子
宮脇美和子
佐藤美智子

● 土筆俳句会

鬼灯や心通はす友萎へし
裏庭の蚯蚓の肥える土黒し
枝折れの沙羅の大樹や花咲かす
炎登のバイク過ぎ去る郵便夫
藪払い踏み出す野辺に青嵐
薫風の唄聞こえ来る釧路川
一斉に花火見上げてわあっとね
ラジオ聞く夜店の面にホームラン
歩をせがむ弟の遺した白い靴

高尾美津子
池田 美知
山川 輝子
南川富美子
佐藤英三子
滝口富美子
菅原 優子
森田裕美子
小橋 厚子

第7回理事会〈令和5年6月29日開催〉以下の事項について決議・承認されました

1. 関係団体等諸会議について
2. 第1四半期随時監査報告について
3. 内部監査報告について
4. 組合員の加入脱退について
5. 財務報告及び事業実績について
6. 令和4年度農協経営分析について
7. JAバンク基本方針に基づく体制整備モニタリング報告について
8. 固定資産の修繕について
9. 令和5年度上半期決算実地棚卸 理事並びに監事立会について
10. 職員の人事及び業務事故について
11. LINEWORKSの活用について
12. 貸出金の貸付報告について
13. 令和5年度麦・大豆生産技術向上事業及び産地生産基盤パワーアップ事業の採択結果について
14. 畑地化促進事業の採択結果について
15. 令和5年度 主要農作物の生育概況（6月15日）について
16. 令和5年度 集荷繁忙期（秋）人員体制並びに検査員配置について
17. 令和5年産 米出荷契約、集荷販売計画について
18. 令和5年産 小麦の集荷について
19. 畑作物作付状況について
20. 令和5年産 玄そば出荷契約数量について
21. 畜産物の販売実績について
22. 青果・花き集荷販売実績について
23. R5温材奨励金の支払について
24. R5肥料年度JA価格の設定について
25. R6肥料温材推進について
26. 経済部事業実績について

- 議案第1号 会長の選任について
 議案第2号 組合長、専務の選任について
 議案第3号 代表理事の選任について
 議案第4号 地区代表理事の選任について（変更地区のみ）
 議案第5号 委員会委員の構成について
 議案第6号 各委員会の委員長、副委員長の選任について
 議案第7号 理事の順位について
 議案第8号 理事報酬支給区分の変更について
 議案第9号 常勤理事の事務引継に係る立会人の選任について

- 議案第10号 組合員の出資金持分譲渡について
 議案第11号 固定資産の修繕について
 議案第12号 幌加内支所そば乾燥調製施設雪害改修工事に係る請負業者の選定について
 議案第13号 固定資産の取得について
 議案第14号 クミカン貸越極度額の変更について
 議案第15号 貸出金の貸付について
 議案第16号 理事に対する貸出承認について
 議案第17号 系統外販売に係る取引先の追加について

音江保育園 バケツ稲レポート



7がつ 18にち 火ようび

ぐーんと大きく育ってます！暑い毎日ですが稲は元気いっぱいです♪今から収穫が楽しみです(*´▽`*)

組合員の動き

(令和5年6月末日)

		当期首	加入	脱退	当月末
正組合員	個人	1,250	2	31	1,221
	団体	102	3	0	105
准組合員	個人	5,477	52	30	5,499
	団体	271	1	0	272
正組合員戸数		893	1	22	872



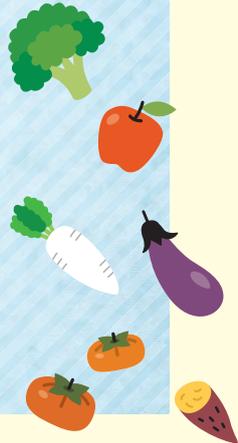
金融共済部からのお知らせ

JAカード
限定!

2023年9月・10月は

JA直売所のご利用が

15% おトク!



JA直売所 (JAカード5%割引実施店舗) で、対象期間中にJAカードをご利用いただくと、ご利用金額合計の10%相当分*をポイント還元! いつもの5%割引と合わせて、15%相当おトクにご利用いただけます!

*還元ポイントの上限は2,500ポイント(10,000円相当)です。

いつもおトクな
JAカード特典!

JA直売所のご利用は
請求時



5%
割引!

*一部対象外の店舗がございます。

期間限定キャンペーン

JA直売所のご利用金額の

10%相当をポイント還元!

対象期間 2023年9月1日(金)~10月31日(火)

還元時期 2024年1月

対象期間のJA直売所でのご利用金額合計の10%相当分から還元ポイント(4円で1ポイント)を計算します(小数点以下は切り捨て)。還元ポイントの上限は2,500ポイント(10,000円相当)です。

*ポイントは「JAカード わいわいプレゼント」または「JAカード ゴールドポイントプログラム」でご利用いただけるポイントです。*還元金額はポイント交換でキャッシュバックをご選択された場合の金額(1ポイントを4円換算で交換)を記載しています。

詳しくはこちら

<https://www.cr.mufig.jp/jafarmmarket2023/>



*本紙記載の情報は2023年4月時点の内容です。特典については予告なく終了や内容の変更を行う場合がございます。
*JAビジネスカード、JAコーポレートカード、JCBブランドのJAカードは本特典の対象外です。
*JAカードでのお支払いが対象です。電子マネーやコード決済等でのお支払いは、JAカードを登録されている場合でも本特典は適用されません。